

五反島遺跡

白鳳～奈良時代の遺物が 大量に見つかりました！



文化財特集号

発掘調査の成果や、市内で初めて国の登録記念物となった庭園などを紹介

- ◇吹田市の文化財保護の取り組み
- ◇垂水南遺跡第 59 次発掘調査の概要
- ◇五反島遺跡の発掘調査
- ◇新規登録の文化財① 国登録記念物 旧中西氏庭園
- ◇新規登録の文化財② 国登録記念物 旧西尾氏庭園
- ◇平成 25 年度特別企画「むかしのくらしと学校」

表紙写真：(上) 出土状況／(下) 出土した軒丸瓦

吹田市の文化財保護の取り組み

文化財の調査

〔平成24(2012)年11月～平成25(2013)年10月〕

埋蔵文化財

平成25年4月15日～9月17日にかけて、吹田市南吹田下水処理場内における雨水滞水池設置工事に伴う五反島遺跡の発掘調査を実施しました。また同年9月24日～10月2日にかけて、垂水南遺跡の発掘調査（第59次）を実施しました。（発掘調査の詳細は3～5頁）

また、埋蔵文化財包蔵地及びその周辺地において、34件の試掘調査と68件の立会を行いました。

その他の文化財

佐井寺2丁目の古民家調査、佐井寺の古文書調査、旧西尾家住宅の資料調査等を行いました。また、東野良平氏に依頼して、佐井寺の護摩堂・鐘楼の調査を行いました。

◎佐井寺の護摩堂・鐘楼◎

護摩堂の遺構は大阪府下でも数少なく、吹田市では佐井寺のものが唯一で、極めて貴重な遺構です。その建築技法・様式から、建築年代は17世紀に遡ると考えられます。鐘楼については、府下で最古の部類に属するもので、梵鐘が鋳造された慶安2（1649）年に同時に建築されたと見られます。修理・改造が少なく、当初の形式をよく伝えています。

歴史的建造物の保存・活用

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）

国重要文化財である建物や新たに国登録記念物となった庭園を一般公開するとともに、様々なイベントを開催しています。平成24年からは西尾家所蔵資料の展示会を開催しており、平成25年には「第二回小さな特別展 西尾家に伝わった人形たち」を開催しました。

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）

国登録有形文化財・市指定有形文化財である建物や新たに国登録記念物となった庭園を一般公開しています（予約制）。春と秋には特別公開も行なっています。

文化財の保存・啓発

（平成24年度）

文化財説明板

文化財についてより広く市民の方々に理解していただくために、市内の遺跡等の文化財所在地に説明板を設置しています。平成24年度には、吹田ヒメボタル文化財説明板（高野台3丁目ほか、吹田千里緑地第4区）を新設し、また原町周辺の須恵器窯文化財説明板（原町4-26）の修繕を行いました。



ヒメボタル説明板

文化財保存事業補助金の交付

平成24年度は、市指定有形民俗文化財1件、市指定無形民俗文化財1件、市地域無形民俗文化財4件について、その保存と活用を図ることを目的に、保存・修理事業に対して補助金を交付しました。

文化財の新規登録について —吹田市内で初の国登録記念物—

吹田市に所在する2件の庭園（旧中西氏庭園、旧西尾氏庭園）が、庭園としての造形が芸術的・学術的に高い価値を有するとの評価を受け、平成25年6月21日に開催された国の文化審議会において登録記念物に登録するよう答申され、その後同年8月1日付けで国の文化財登録原簿に登録されました。吹田市における登録記念物の登録は今回が初めてで、大阪府下においても名勝地関係で国の登録記念物となったのはこれまで1件しかなく、今回の登録が2例目です。（詳細は6・7頁）

垂水南遺跡第59次発掘調査の概要

1. 垂水南遺跡について

垂水南遺跡は吹田市垂水町3丁目一帯に展開する、弥生時代～中世期の複合遺跡です。中でも中心となるのが古墳時代前期～中期の集落跡で、これまでの調査で竪穴式建物跡、掘立柱建物跡、井戸などの遺構が見つっています。今回の調査は、昭和57(1982)年に実施した第24次調査区の西隣、垂水町3丁目28-1において実施されたものです。

2. 調査の成果

現地表面から約1.4m下には黒褐色粘質土層をベースとした溝が確認され、その下には土器溜まり（濃密な土器群、古墳時代）が見つかりました。

溝は南北方向に1条（溝1）、東西方向に2条（溝2・3）確認されました。溝1は幅0.2～0.3m、深さ0.1mを測り、溝2は幅約0.3m、深さ0.1m、溝3は幅0.5～0.9m、深さ0.2～0.3mを測ります。重複の状態から溝2・3の後に溝1が形成されたものと考えられます。溝からは古墳時代の土器片のみ出土しましたが、層位関係からみて平安時代に形成されたものと思われます。

土器溜まりは調査区のほぼ全域で見つかり、密な部分とまばらな部分が認められ、総じて古墳時代の土師器細片で構成されています。土師器片は遺存状況の悪いものが多いのですが、中にはほぼ完形に復元できる良好なものもあります。土器溜まりの出土遺物は弥生土器（甕）、古墳時代の土師器（壺、甕、高杯、鉢、

器台、4～5世紀）、須恵器（杯、甕）、砥石が確認されました。

以上のとおり、今回の調査では平安時代の溝3条、古墳時代の土器溜まりが確認されました。溝は、平安時代の庄園に関連したものである可能性があります。古墳時代の土器溜まりは近隣の集落から排出されたものと考えられますが、遺存状況の悪い土器片も多いことから、再堆積の可能性もあります。

（西本安秀）



確認された土器溜まり（南から）



確認された溝（北から）



土器溜まり細部（東から）

五反島遺跡の発掘調査

今回の発掘調査は、南吹田下水処理場内での雨水滞水池建設工事計画にともなって実施したものです。神崎川の右岸に位置する五反島遺跡は、古くから河川の影響を受けやすく、付近一帯は砂を主体とする河川堆積物に厚く覆われています。そのため、今回の調査でも、地表面（標高5m）から6～7mという深さで、かつての川の底面が認められ、その川床付近で大量の土器や瓦などが見つかりました。

土器など遺物の年代は、弥生時代から室町時代までと幅広いものでしたが、なかでも白鳳～奈良時代の遺物がまとまって見つかり、特に残存状態が良好な須恵器の甕・壺や白鳳時代の瓦の多さが際立っていました。

また、銭貨が多く出土し、和同開珎（22枚）、萬年通寶（6枚）、神功開寶（27枚）が出土したほか、平安時代に鑄造された隆平永寶（1枚）、承和昌寶（2枚）も出土し、古代の銭貨をあわせて58枚も見つかりました。宮都や役所跡などの遺跡以外で、これだけの数の古代銭貨が見つかるのは珍しいことです。

このほか、平安時代の遺物も比較的多く出土しました。特徴的なものでは、土器に文字を書いた墨書土器があり、「安寺」、「申」、「中」などと書かれたものがありました。

また、白鳳時代から平安時代にかけてのものと思われる鉄製の鍬や鋤、斧、矢じり、刀子などが多く出土したほか、時期ははっきりしませんが、鉄製の柄をもつ銅製容器が1点出土しました。銅製の容器は、古代・中世において日常品として用いられることは少なく、仏具など特殊な用途で使われたものではないかと考えられます。

このほか、卒塔婆が4点出土しました。卒塔婆は亡くなった人の供養のために用いられるものですが、うち2点に、室町時代の「文明」

（1469～1487年）という年号が書かれています。

以上のように、今回の発掘調査では、かつての川床付近で大量の遺物が見つかりました。その年代幅は広く、さまざまな時代のものが混在する様相でしたが、とくに白鳳～奈良時代のものがまとまって見つかりました。なかでも須恵器と瓦の多さが目立ちます。この状況から、この時期の遺跡の性格としては、2つの可能性が考えられます。

1つは、瓦が数多く出土していることから、古代寺院と何らかの関係があったのではないかと可能性です。古代において瓦が用いられた建物は、宮都や役所、寺院などごく限られたものであり、この点で、瓦の存在は古代寺院との関連を思い起こさせます。そして、白鳳時代の瓦と直接的に関連するかどうかはわかりませんが、平安時代の「寺」と書かれた墨書土器の存在も興味深い点です。

また、もう1つの可能性は、残存状態良好な須恵器・瓦を中心とする遺物が大量にあったことから、ここが港などの物流の場であり、そうした場所に集まってきた品々が、洪水などによって埋もれてしまったのではないかと可能性です。時期の判断は難しいのですが、川床面には、打ち込まれた木杭や長さ5～6mもある木杭が横倒しになって残っていました。またこぶし大から数十cm大の石が300個以上出土しました。これらの木杭や石の出土状況は、護岸施設や橋、栈橋などの存在を想起させます。

なお、物流という視点でみれば、今回の調査では白鳳～奈良時代の遺物がまとまって出土しましたが、昭和61（1986）年度の調査では、古墳時代と平安時代のものが良好な状態で多く見つかっています。この点で、五反島遺跡は、様々な時代を通じて河川を介しての物流の場であったという可能性が考えられます。

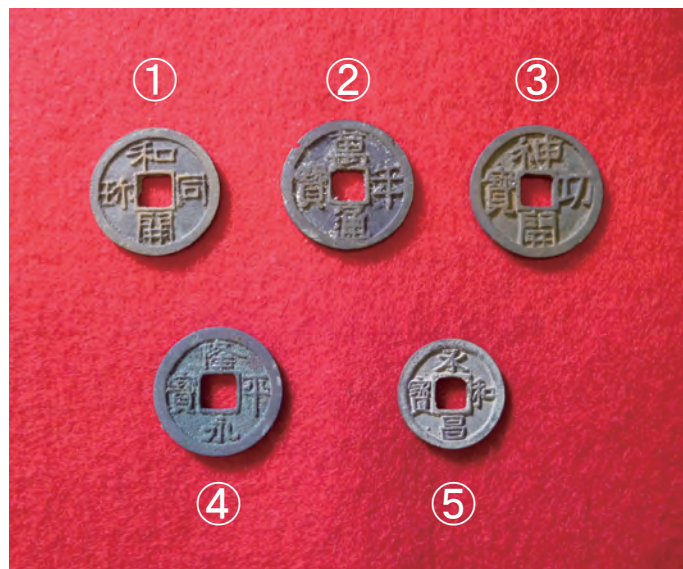
（賀納章雄）



作業風景



実測の作業風景



出土した古代の銭貨

- ①和同開珎（初鑄708年）④隆平永寶（初鑄796年）
②萬年通寶（初鑄760年）⑤承和昌寶（初鑄835年）
③神功開寶（初鑄765年）



出土した銅製容器



出土した軒丸瓦



「安寺」と書かれた墨書土器

国登録記念物 旧中西氏庭園



主屋南側の庭園
手前は西園・東園の間に架けられた石橋



東園の池底



中央に見えるのが東屋

名 称 旧中西氏庭園

ふりがな きゅうなかにししていえん

種 別 登録記念物（名勝地関係）

◇概要◇

東西約 55 m、南北約 58 m のほぼ方形の敷地内に存在する旧中西氏庭園は、（Ⅰ）離れ座敷西側の庭園、（Ⅱ）茶室まわり露地、（Ⅲ）主屋南側の庭園、（Ⅳ）長屋門北側の庭園〔東園〕、（Ⅴ）玄関棟南側の庭園〔西園〕の 5 つの部分から構成されます。残された屋敷図や古写真等により、幕末から明治 33 (1900) 年頃までの間に完成したものとみられます。中西家は、寛政期頃から庄屋、天保期からは淀藩大庄屋の役をつとめており、このような同家の社会的地位の変化に伴って、屋敷・庭園の整備が順次行われたものと考えられます。

（Ⅰ）・（Ⅱ）の庭園は敷地西半部に存在し、茶座敷や、園外北方の紫金山方面・吉志部神社を眺望し四季の景物を楽しむために敷地北西隅に設けられた東屋（物見）などの建物と、一体的に構成されています。中西家に伝わる天保 5 (1834) 年作成の屋敷図を見てみると、離れ座敷・物見・茶室は連続して描かれており、この頃から一連の庭園であったとみられます。

敷地東半部には（Ⅲ）・（Ⅳ）・（Ⅴ）が存在します。（Ⅲ）は現在、石庭となっていますが、元は農作業のための空地であったと思われます。そして（Ⅳ）・（Ⅴ）は、本庭園最大の特徴である、細長い溝によって繋がる深さ約 2 m の掘り込み状の庭園です。池泉式（水を巡らせた庭園）ではなく枯池状となっており、設けられた石段から池底に降り、斜面部の石積や植栽によって演出される幽谷の雰囲気味わえるよう作庭されています。さらには、単に鑑賞のためのものではなく、茶室への露地として利用されたことも想定されます。

このように、旧中西氏庭園は珍しい発想・技法による独特の意匠・構成で作庭された庭園で、そこには全体として、煎茶を嗜んだ中西家の江戸時代以来の文人趣味が体现されています。（中岡宏美）

国登録記念物 旧西尾氏庭園



室内から主座敷南庭を見る



露地中央の築山



内露地

名 称 旧西尾氏庭園

ふりがな きゅうにしおしていえん

種 別 登録記念物（名勝地関係）

◇概要◇

旧西尾氏庭園は、約1,500坪におよぶ敷地の中に建ち並ぶ主屋や土蔵などの建物を包むかのように存在する、露地を主体とした庭園です。

京都茶道藪内家の茶室燕庵^{やぶのうち えんなん うんきやく}写し及び雲脚^{みずや}写しを、水屋^{みずや}を中央に介して繋いだ茶室（積翠^{せきすい}庵^{あん}）に付随する庭は、主座敷^{しよ}の南・西庭（書院^{しんいん}庭と総称）と一体のものとして、茶室の内露地・中露地・外露地を構成しています。この多重露地の構成は、敷地の形状や建物の配置に違いはあるものの、藪内家の燕庵と共通しており、燕庵の露地構成を意識して作庭されたものとみられます。

露地には、山中^{おんみやき}の趣が意識して取り入れられています。中央には低い築山^{つきやま}があり石組がなされ、クロマツの大木、そのほかアラカシ、ヒラドツツジ、モッコク、クチナシなどの植栽とあいまって山居^{さんきょ}の体^{かみ}を醸し出しています。また、配された飛石^{とびいし}は、全体的に小振りで凹凸のある石が選ばれており、これも山居の趣を意識したものと思われます。

積翠庵周りの庭は茶室の建築と同じ明治26（1893）年、また書院庭は明治39（1906）年に、藪内家第10代休々斎^{きゅうきゅうさい}とその養子である節庵^{せつあん}の指導・監修のもと、同家にかかわる職人によって作庭が行われました。西尾家は、第11代当主の與右衛門^{よゑもん}が藪内流茶道を学び皆伝を受けなど、藪内家と密接な関係があり、そうした縁から本庭園の作庭が休々斎や節庵によって手掛けられたものと考えられます。

このように、露地の様式^{ようしき}を踏襲し、藪内家家元の指導のもと作庭された旧西尾氏庭園は、作庭当時の姿を良好にとどめ、近代庭園、とりわけ近代における露地の在り方を現在に伝える存在であり、重要な作例として高い評価を受けています。（中岡宏美）

平成 25 年度特別企画「むかしのくらしと学校」

今年も学校教育との連携展示である「むかしのくらしと学校」展が 12 月 10 日より始まりました。展示は小学校 3 年生の社会科の単元「かわってきた人々のくらし」に関連する、ちょっとむかしの電気、ガス、水道がなかった頃のくらしをテーマに①食事を作る。②食べる。③着る。④洗濯と洗い張り。⑤むかしの農家。⑥あかりと暖房。⑦むかしの子どもと遊び。⑧子どもと年中行事。⑨むかしの学校。⑩はかり。の 10 のコーナーから構成されています。展示に当たっては、毎年、展示見学を終えた学校からのアンケート結果をもとに、学校見学の案内解説を担当していただいているボランティアの皆さん

と企画会議を行い、少しずつ改善しています。展示品は実物資料に加え、資料に触れ、体験できることを重視し、①読んでみよう（むかしの教科書）②聞いてみよう（唱歌・童謡）③織ってみよう（さをり織り）④はかってみよう（台ばかり）⑤はいてみよう（下駄・ぞうり）⑥火花をだそう（火打ち金・火打ち石）⑦むかしの便所⑧茶の間で朝ご飯⑨赤ちゃんおんぶ⑩井戸で水くみの 10 種類の体験資料コーナーを配置しています。

土・日・祝日には子ども向けの関連イベントも開催しておりますので、ぜひ 3 世代のご家族連れでお越しいただき、お楽しみいただければと思います。

関連イベント（◆親子体験講座◆）

「昔あそびとやさしいおもちゃ作り」

日時：平成 26 年 2 月 2 日（日）

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：竹を素材とした昔の遊び道具や牛乳パックなど、身近な材料を使ったおもちゃ作りをします。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

申込：1 月 18 日（土）必着

「大昔のアクセサリー ～勾玉作り～」

日時：平成 26 年 2 月 22 日（土）

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：ろう石を削ったり、磨いたりして、大昔のアクセサリー勾玉を作ります。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

申込：2 月 10 日（月）必着

「昔のあかりと火おこし体験」

日時：平成 26 年 3 月 8 日（土）

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やマイギリなどの火おこしを体験します。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

申込：2 月 22 日（土）必着

「木端細工を作ってたのしく遊ぼう」

日時：平成 26 年 3 月 16 日（日）

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：木の枝などを使って楽しいおもちゃを作ります。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

申込：3 月 1 日（土）必着

「布ぞうり作り」

日時：平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）

午前の部 10 時～12 時

午後の部 1 時 30 分～3 時 30 分

内容：布地を使ってぞうりを作ります。

定員：午前、午後の部とも各 20 組

申込：3 月 10 日（月）必着

対象：小学生以上（少し難しいので）

■申込方法

はがき、または F A X に、講座名、希望の時間帯、住所、参加者全員の氏名、学年、電話番号を書いて博物館まで。申し込み多数の場合は抽選となります。

この冊子は、3,000 部作成し、1 部あたりの単価は 25 円です。

吹田市立博物館だより第 56 号／平成 25 (2013) 年 12 月 20 日発行

●発行 吹田市立博物館

〒564-0001 吹田市岸部北 4 丁目 10 番 1 号

TEL06(6338)5500 FAX06(6338)9886

ホームページ <http://www.suita.ed.jp/hak/index.html>